

す

く

す

く

83号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2023年度 第2号 2023. 7. 1 発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 岡尾 良一

新年度がスタートして3か月が経ちました。この時期は子どもたちが新たな生活の場へと巣立ちを迎える時期でもあります。新生児期から3年近くを当院で過ごした子どもたちも少なくなく、心も体も大きく成長した姿は本当に感慨深いものがありますね。どうかその後の人生を幸せに生きてほしいと願いながら送り出す日々が続いています。

そして、4月に入職した新人保育士たちは1か月の研修期間を終え、それぞれの担当となったユニットで子どもたちと様々な生活場面を共にしながら保育士としての一步を踏み出しました。施設内には新しい風が吹いています。

コロナが5類となり養育の現場では徐々に活動が広がってきました。春の遠足は初の試みです。横浜、江ノ島、千葉へと足をのびし、子どもも職員も楽しい1日を過ごすことができました。また、日常の戸外活動にも変化がでてきました。居室単位で外出機会を増やし、リアルなお買い物を体験する、あるいは星空の下で夜の時間を楽しむなど、職員たちは様々なアイデアを出して、子どもたちの生活体験の質と量が充実するようにと計画を進めています。また、産学連携の一環として、手作りおやつ会を通じた地域の学生との交流が、近く実現しそうです。引き続き感染対策に配慮しつつ、どこまで許容できるのかを慎重に判断しながら支援の充実を図ってまいります。

乳児院の活動に日頃よりご理解とご支援を頂いている関係者の皆様には深く感謝申し上げます。今後とも子どもたちへのご支援をよろしくお願いいたします。

副院長 石田 晃代



理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。
（「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです）

基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、
子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求します。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切にし、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。

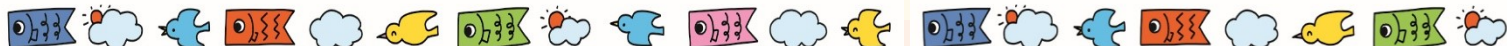


こいのぼり会



5月11日にこいのぼり会を行いました。子どもたちはおしゃれ着に着替えて、初節句のお祝いをしました。会場に入場すると、こいのぼりや五月人形に興味津々な子、いつもと違った雰囲気に緊張している子など、子どもたちそれぞれの反応を見ることが出来ました。職員の出し物“おべんとうバス”では、子どもたちがごぼうやバナナなどの具材をバスに貼り、みんなでおいしそうなお弁当を作って楽しみました。他にも“こいのぼり”の歌や“エビカニクス”のダンスを上手に歌って踊り、練習してきた日頃の成果を発揮することが出来ました。乳児さんの“せんたく”のふれあい遊びでは、ニコニコ楽しそうな表情を見せてくれました。

保育士 大野 華



春のえんそく

5月18日、たんぽぽのお部屋の子どもたちは「こどもの国」へ遠足に行きました。この日は朝から日差しが強く、日中は30℃を超えて季節外の暑さになるとの予報。出発前から職員間で熱中症の予防対策を確認しあい、予定よりも多めの水分を荷物に入れました。広い園内に入場すると、子どもたちはおおはしゃぎ。草木や動物に触れ、たくさんの遊具で思い切り体を動かし、元気いっぱい遊びます。私たち職員は子どもたちの楽しい気持ちに寄り添いつつ、タイミングを見てこまめに水分をあげたり、木陰に入って涼む時間を作りました。全員が元気に帰院できた時にはホッとひと安心。暑さに負けることなく、みんなで楽しい一日を過ごせたことを嬉しく思いました。

看護師 金澤 泰子



【たんぽぽ】は こどもの国へ



【さくら】は すみだ水族館へ



【こすもす】は マザー牧場へ



【ひまわり】は 江の島水族館へ



各居室の子どもたちの日々のエピソードをお届けします

たんぽぽ

ぬいぐるみを抱っこしながら子守唄を歌っている子が「しー。寝てるの。」と教えてくれました。おまごとで遊んでいる時には食事前の挨拶が聞こえてくるともあります。私たちが普段何気なくしていることが遊びに繋がっている姿を見て嬉しさと共に子どもの観察力、表現力に感銘を受けました。

保育士 長縄 友里



ひまわり

お散歩の時、普段は飲み物を持参しますが、今日は自動販売機でジュースを購入しました。みんなで順番に硬貨を入れ、リクエストの多かった桃ジュースやカルピス等を購入しました。その間、小さなお子さんたちはベビーカーで気持ち良さそうに眠っています。ジュースは公園で遊んだ後に、分け合い美味しくいただきました。

保育士 小長谷 香利



こすもす

乳児院の庭には野菜の苗を植えたプランターがあり、子どもたちが水やりを行っています。水をあげながら、赤く色づく前のトマトを不思議そうに見つめる子や自分より背丈の高いきゅうりの苗に驚く子、反応はそれぞれです。たくさんの発見や驚きを共有しながら「大きくなあれ」の気持ちを込め、楽しく野菜のお世話をしています。

保育士 中村 綾



ちゅーりっぷ・さくら

乳児ユニットの子どもたちはテラスでの外気浴が大好きです。テラスに出ると、外の空気に気持ち良さそうにあたり眠ってしまう子も。室内では鏡の玩具が大好きなAちゃんが鏡に映る自分をみつめ「うー」とお話しています。子どもたちの好奇心を育めるようこれからも月齢や興味に合ったあそびを行っていきたいと思います。

保育士 栗原 ゆり佳



新入職員紹介

保育士 5 名、心理士 1 名、補助員 1 名が新たに加わりました！

今までは医療の領域で仕事をしていて、福祉の領域は初めてでドキドキもたくさんあります。日々子どもたちとの関りを大事にしていきたいです。(心理士)

子ども一人ひとりが楽しく安心して生活できるような声掛け・援助を心がけていきたいです。(保育士)

子どもたちみんなに好きになってもらえるように、これからもがんばっていきます。(保育士)

元気いっぱい頑張ります(保育士)

子どもたちと一日一日を大切に過ごし、気持ちに寄り添いながら私自身も保育士として成長していきたいと思います。

お子さん一人ひとりと沢山の“楽しい”を共有して寄り添える保育士でいたいと思います。

子どもたちが過ごしやすい環境になるように、頑張ります(補助員)

ショートステイ事業紹介

当院では、令和 3 年度より地域の子育て支援の一環として、ショートステイ事業を行っています。開始当初は港区在住の方が対象でしたが、現在は品川区も対象となり、定員数も増えました。生後 5 日から 1 歳未満のお子さんを対象に、1 泊から 6 泊までご利用いただけます。利用理由は、保護者の入院や家族の看護・介護、出張、冠婚葬祭、休息など様々です。保育士、看護師、支援員、管理栄養士などの専門職が連携して、安全にお子さんをお預かりしています。育児で困ったときや疲れたときに気軽に相談できる、頼れる場所としての乳児院を目指し、今後も地域との繋がりを深め、より多くの方に利用して頂けるよう支援の輪を広げていきます。



ショートステイプロジェクト
家庭支援専門相談員 平岩 葵

済生会本部の HP に当乳児院のショートステイ事業が掲載されています。ぜひ QR コードからご覧ください。

【0～3 歳児の育児にお困りの方へ】

当院では育児相談を平日 9～16 時に受け付けています。 担当 看護師長 小泉

【寄付金について】

当院では子どもたちの養育環境整備のため寄付金を募っています。 担当 事務 竹田

上記について詳しくは右記までご連絡ください。 Tel 03-3451-8289 (直通)

「すくすく 第 83 号」2023.7.1 発行

〈発行人〉 岡尾 良一

〈編集委員〉 小泉 菜穂子 前田 朋子 樋口 麻友子 長縄 友里